［制作記録］

学生による本学所蔵「架鷹図屏風」の周知用メディア制作

Production of Media Publicity for Kanazawa College of Art's "Kayo-zu Folding Screen" by a University Student

荒木　恵信　ARAKI Keishin
下浜臨太郎　SHIMOHAMA Rintaro

１．はじめに

次項以降に掲載した「よみがえった架鷹図屏風」、「屏風の鷹がよみがえる」、「学内展示・屏風の鷹がよみがえる」は、本学所蔵「架鷹図屏風」の周知を目的として、2020年度金沢美術工芸大学所蔵「架鷹図屏風」研究チームが企画・発行したメディアである。これらの制作つまり、リーフレットやマンガ冊子のデザイン、マンガの制作、展示のコンセプトやパネルの制作設置などは、デザイン科の学生によるものである。

制作のはじまりは９月下旬。充実した怒涛の下半期となった。本報告は、その制作過程と成果の一部である。

２．学生たちと共に奮闘する

研究チームは寺井教授と坂野准教授のご協力を得て、周知用のメディアとして何をどのような意図で制作するかを決定した。そして、学生を募った。

10月下旬、マンガを描く学生２名、リーフレットとマンガ冊子のデザインに学生１名が名乗りを上げてくれた。展示の学生が、後に１名加わる。

さて、今回のテーマは、本学所蔵「架鷹図屏風」の作品の魅力と文化財修理の大切さを、楽しく、わかりやすく大勢に理解を促すことである。そのためにはまず、集まった学生たちが、作品や文化財保存の意義、修理の実施について理解しなければ制作が進まない。そこで、研究チームとの打ち合わせに留まらず、石川県立文化財保存修復工房の見学、修復師や鷹狩りの専門家へのインタビューなどを行った。12月から翌年１月にかけてのことである。そして、学生も研究チームも３月の期限ギリギリまで制作や校正に没頭したのである。

３．おわりに

完成したメディアはどれも、学生たちの豊かな想像力によってインパクトとユーモアで満たされ、予想以上の仕上がりとなった。もちろん、作品のイメージを損なわず、正確な情報を誤解のないように伝達するという周知メディアの条件を満たしている。学生や一般の方々、文化財保存の関係者から、多くの賞賛を頂いた。学生のバイタリティーを介して文化財の周知方法の新たな可能性を学んだ研究チームであった。

謝辞

多大なご協力を賜りました寺井剛敏教授、坂野徹准教授に改めて御礼申し上げます。

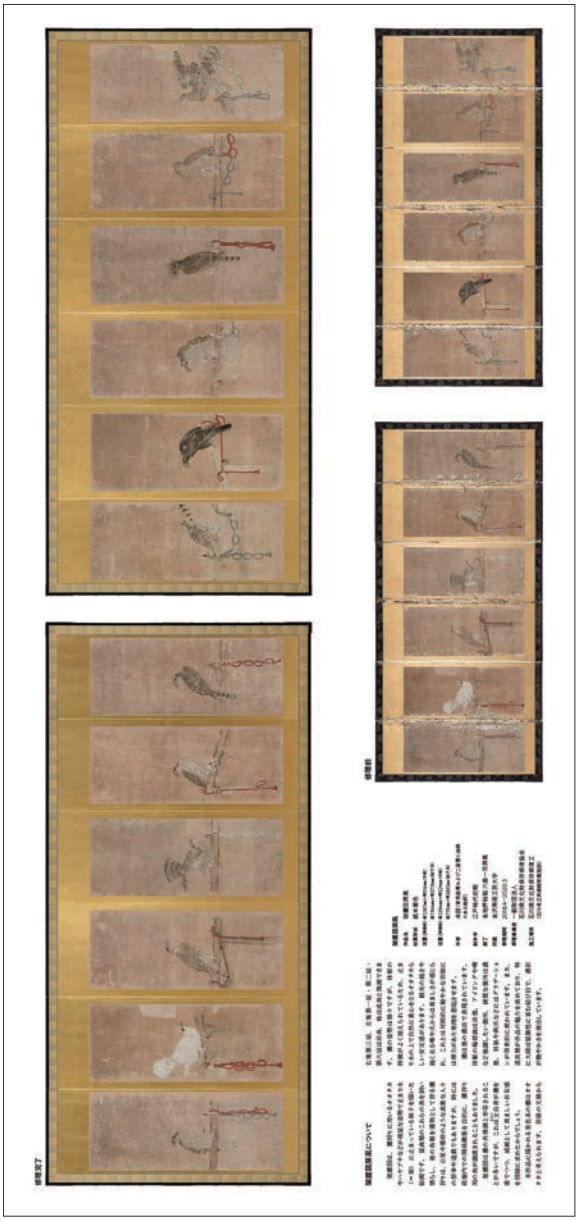
附記

本報告は、令和２年度特別研究の成果の一部である。

（あらき・けいしん　日本画／文化財保存学）
（しもはま・りんたろう
視覚デザイン／グラフィックデザイン）

（2021年11月５日　受理）

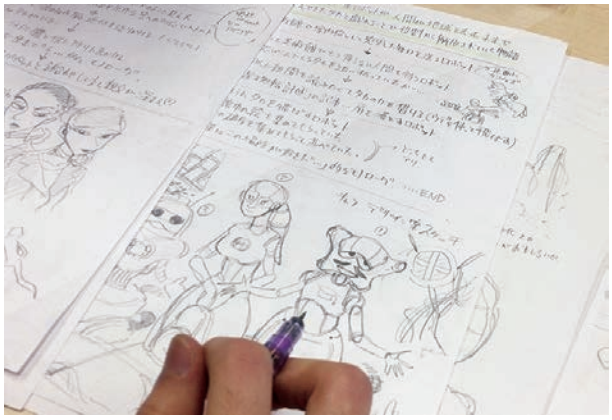
［キーワード］マンガ　デザイン　文化財



リーフレット「よみがえった架鷹図屏風」
デザイン 林蓉子（修士課程 視覚デザインコース１年）、執筆・監修 荒木恵信、デザイン監修 坂野徹、制作進行 下浜臨太郎
上：折り込み外側 下：折り込み内側 仕様：Ａ４、６頁、巻３つ折、両面カラー　用紙：アイベスト　オフセット印刷

マンガ冊子「屏風の鷹がよみがえる」
ブックデザイン 林蓉子、執筆 荒木恵信、
デザイン監修 坂野徹、制作進行 下浜臨太郎
A５ 中綴じ冊子 24 ページ

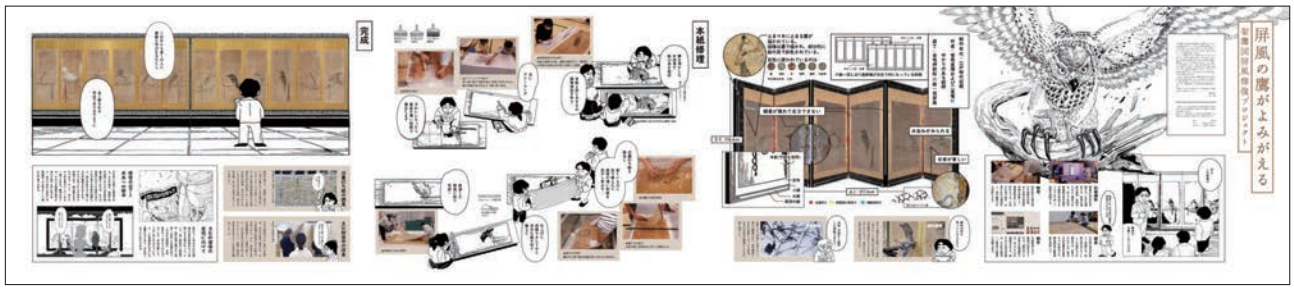
マンガ制作を担当する学生が石川県文化財保存修復工房にて修復師にインタビューする



マンガの原案を持ち寄って打ち合わせをする

マンガ「架鷹図屏風修復漫画」の部分
作者 渡辺菜緒（視覚デザイン専攻４年）

マンガ「ミライ・コンティニュー」の部分
作者 砂川友希（視覚デザイン専攻４年）



キャプション作成計画

作成されたキャプションを設置のため並べる

キャプションの設置風景

学内展示「屏風の鷹がよみがえる」
デザイン・制作 伊藤さと（視覚デザイン専攻２年）、執筆 荒木恵信、監修・指導・制作進行 下浜臨太郎
サイズ：横 760㎝ 縦 165㎝　展示場所：本学第３展示ホールガラスケース内　展示期間：2021年４月７日（水）-５月28日（金）